



氣田 量子
(自民公明クラブ)

農福連携の実現のための 今後の取組は

マッチング体制整備に向けた 協議の場を設ける

問 障害者の就労支援、農業分野の人出不足の解消のために農福連携を実現して欲しいと考えるが、市の今後の取組は。

答 広く推進することを目的に今年7月に農福連携推進講演会を開催し、農福連携に関する市民や農業者への認知度は一定程度向上したと考えています。今後は農業者向けには農福連携の実践に関する知識などを深める機会の創出、福祉就労支援事業所向けにはマッチング体制整備に向けた協議の場を設けるなどの支援をしていきたいと考えています。

問 社会全体でケアラーをサポートしていく姿勢が求められているが、支援の必要性について市はどう考えているのか。

答 支援の必要なケアラーを早期に発見し、ケアラーが抱える負担の軽減を図っていく支援が必要と考えています。

問 ケアラー手帳を作って配布する考えは。

答 ケアラー手帳が有効な手段となるかどうかも含め調査研究を行います。

問 災害時の逃げ遅れゼロプロジェクトに市はどのように取り組んでいるか。

答 高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、外国人などのいわゆる要配慮者の方が、円滑かつ迅速に避難できるように支援しています。また、町内会や自主防災組織の活動においても、要配慮者が支援を受けられるよう取組を進めます。

問 外国人向けの防災ブック配布状況は。

答 市民課の窓口で、防災行動の一助にさせていただくため4か国語で作成したパンフレットを配布し、ホームページでは防災ハザードマップを4か国語に翻訳して掲載しています。



工藤 正廣
(明政一心会)

子育て支援の環境整備の考え方は

国等の動向や 市民の意見を踏まえ取り組む

問 公益社団法人十和田青年会議所と松陽地区コミュニティ推進協議会は、旧松陽小学校の体育館を利用して子供が遊べるキッズパークを整備し、大変すばらしい活動を行っている。以前にも少子化対策は保育料の無償化だけでなく、環境を整えることが重要であると発言したが、子育て支援の環境整備の考え方は。

答 より効果が実感できる子育て支援策を展開していく必要があると考えていることから、市民や保育施設等の意見を踏まえ、課題を整理、検証するとともに、国が示すこども大綱や県の動向にも留意し、関係機関とも十分に連携を図りながら、子育て環境の充実に向け、鋭意取り組んでいきたいと考えています。

問 町内会の規模が小さくなる中で、コミュニティの範囲を広げ、大きな組織とする考えは。

答 地域の方が一緒になって活動しやすい小学校単位等の形も必要だと考えています。

問 高齢者が集まれるサロンをつくるべきでは。

答 今年度策定の計画において検討していきたいと考えています。

問 健康長寿のまちづくりは、全国自治体の課題で、大規模な計画でスピードを持って対策をしなければならない。健康長寿の施策は何か。

答 若い世代から市民一人一人が健康に関心を持ち、継続して取り組むことが重要であると考えていることから、ポイントラリーの拡充など、市民の健康づくりに努めたいと考えています。

問 大変好評だった「湯っこで生き生き交流事業」が中止になったが、それに変わる施策は。

答 介護予防事業の見直しを行い始めた「いきいき体操」となります。